

色ベタ (流用)
or
(スミベタ)35歳
28歳田辺 瀬良美
TANABE, Serabi

東京都立多摩総合医療センター 麻酔科
東京都出身
千葉大学医学部・1997年卒業

<所有資格>
麻酔科標榜医 / 麻酔科学会指導医 / 日本専門医機構麻酔科専門医 / JMELS インストラクター (ベーシック, アドバンス)

0.12スミベタ
(以下同)

■座右の銘

捨てる神あれば拾う神あり
人生万事塞翁が馬
推しは推せるときに推せ

■医療に関する特技

肥満妊婦の脊麻

■これからの目標

誰50歳を過ぎて、あとからやっておけばよかったなあと思わないように生きようと思っています。健康第一で、運動と食事に気を付けて、少しでも長く元気に働いて世の中に貢献したいです！麻酔が大好きな気持ちを忘れずにいたい！

■message

思うようにいかないことや自分はだめだなど思う日もあるでしょう。そんな日はそんな日なりにベストを尽くしましょう。疲れたら休んでまた歩き出せばいい。自分を大切に一步一步歩いて行けば、きっと大丈夫。

みんなのプロフィール帳

◆ 医師を志した動機 ◆

一生食べていける資格だと親に勧められたから。

医学部卒業からこれまでの歩み

1997年 千葉大学医学部 麻酔科

大学卒業後、麻酔科へ入局。臓器別でなく全身に関わる診療科であること、手術室の麻酔科医のスペースがcockピットのように魅力的だったこと、生理学にも造詣が深い西野卓教授の存在が決め手となった。

1998年 沼津市立病院 麻酔科

多数の硬膜外麻酔を経験。現場での手技の積み重ねにより大きな自信を得た。

1999年 千葉大学医学部 麻酔科

2000～2002年 麻酔科標榜医取得後、米国 Johns Hopkins University School of Public Health に留学

白幡真知子先生のラボに所属。サイエンスの面白さ、研究の楽しさと厳しさを体感し、学問への姿勢を深く学ぶ。

2004年 麻酔科専門医取得、結婚

帰国後、臨床の遅れに戸惑うも、後輩の「年齢にこだわるより学ぶ姿勢が大事」という助言で邪念を捨て研修に専念。外科医の夫と出会い結婚。

2006年 大学院入学と同時に妊娠、長女を出産。

2007年 夫が都立府中病院へ赴任し、半年間は千葉と東京で別居。ワンオペ育児の厳しさを経験。

2008年 博士号取得。都立府中病院 麻酔科

府中へ移住。頼れる上司の肥川義雄先生と温かい仲間にも恵まれ、麻酔科医が尊敬される環境に感動。大学では外科医が行っていた脊椎麻酔を、ここではすべて麻酔科医が担当しており、その奥深さを知る。

2010年 埼玉医大総合医療センター

照井克生教授の下で産科麻酔を学び、その面白さと必要性に開眼。次々と文献を教えてください。照井教授の知識の豊富さに触れ、自身もそうありたいと強く思う。

2011年 多摩総合医療センターへの移転とともに常勤医に

都立府中病院が名称変更、移転となる。帝王切開の脊麻にくも膜下オピオイドを導入し、同僚から高評価を得てさらに前進を決意。

2012年 北里大学で無痛分娩研修、長男を出産

研修を受け、長男を妊娠中だった自ら施設での第一号として無痛分娩で出産。その素晴らしさに患者にも必ず提供したいと決心する。

2015年 合併症妊娠症例での無痛分娩第一号

以後、無痛分娩の導入に試行錯誤を重ねる。困難時には大阪警察病院魚川礼子先生からの助言が支えになった。

2019年 J-CIMELS インストラクター (ベーシック, アドバンス) 取得

2020年 コロナ禍で海外ともオンラインでつながる機会が増え、情報収集の重要性和 SNS 活用の価値を実感。

2021年 日本専門医機構麻酔科専門医、日本麻酔科学会指導医取得

2022年 病院の法人化を機に無痛分娩の対象を拡大。無痛分娩に理解のある産科医と無痛分娩ワーキンググループを設立し「チーム医療」を重視。当院麻酔科山本部長が麻酔科全員で無痛分娩に取り組むことを宣言。

2025年 麻酔科医による無痛分娩対応が順調に定着。東京多摩地区で無痛分娩のできる総合母子周産期センターとして、地域と協力して安全な無痛分娩の普及に取り組んでいる。

これまで私を麻酔に導いてくれた西野教授、研究を指南してくれた白幡先生、臨床の面白さを教えてくれた肥川義雄先生、産科麻酔の魅力を教えてください。照井教授、時には優しく時には厳しく無痛分娩を教えてください。魚川先生をはじめ、山本博俊部長をはじめとする大好きな多摩総合医療センター麻酔科の仲間や本多泉先生、曾我江里先生をはじめとする信頼できる産科チーム、分娩部スタッフ、そしていつも私のわがままに付き合ってくれる家族の支えに心から感謝している。